

ISSN 0387-7280

国際日本文学研究集会会議録(第8回)

PROCEEDINGS OF THE 8th INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN  
(1984)

国文学研究資料館  
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 8<sup>th</sup> INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

**1984**

**National Institute of Japanese Literature**

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,  
Tokyo, 142

# 第8回

## 目 次

あいさつ	小 山 弘 志……………	3頁
写真集		
研究発表		
埴谷雄高の小説における語りの仕掛け	Jacques Levy ……………	9頁
『明暗』の視点をめぐって	松 井 朔 子……………	18頁
お伽草子の切支丹シンデレラ	Chieko Mulhern ……………	33頁
—「花世姫」「鉢かづき」「姥皮」のモデルと出典の考察—		
軍記物語における英雄像	山 下 宏 明……………	46頁
日本におけるツルゲネフ受容に関する一考察	Rexo Kim ……………	56頁
島崎藤村の『家』と廉想渉の『三代』	盧 英 姫 (Ro Yeong Hee)	
—“家”の束縛と崩壊を中心に—	……………	67頁
公開講演		
江戸文学のユーモア	Howard S. Hibbett ……	83頁
ヲカシの系譜	阪 倉 篤 義……………	98頁
記録		
日程および研究集会の経過……………		115頁
参加者名簿……………		117頁
国際日本文学研究集会委員名簿……………		121頁



## あ い さ つ

小 山 弘 志

小山でございます。

本日は多数お集りいただきまして、ありがとうございます。

今回は第8回の研究集会ですが、当館が設立されましたのは昭和47年ですのでもう12年になります。ただ建物が整備され資料を皆様に御利用いただけるようになったのは5年後の昭和52年で、その時第1回の研究集会が開かれました。以来、年1回催して来て、今回は第8回ということであります。おかげさまで年を追って盛になっているように思います。皆様の御協力を得てこれをもっともっと推進してゆかなければならないと存じております。

ついでながら、当館について、御承知の方も多いと思いますが、この場で簡単に御紹介を申し上げます。

当館は、昭和47年に国立の共同利用機関として設立されました。その一番大きな仕事は江戸時代の未までの日本文学関係の文献資料を調査し、マイクロフィルムで収集することです。すでに今日まで6万点以上の文献が収集され、利用者にとって、その便利の度合は年ごとに増大していると思います。

それとともに、毎年多数発表されます研究論文の類のリストを作成して『国文学年鑑』を刊行し、またその元となります雑誌や紀要類を収集しております。これまた10年という歳月によりまして、かなり大きなコレクションとなっております。

もとよりこれらの仕事は私ども館員だけでできることではなく、館外の多くの方々の御協力、文献資料の所蔵者、雑誌・紀要の刊行者などの御好意によるものであります。それは、すべて、広く日本文学研究者に御利用いただくという目的のために御協力いただいているものでありまして、その実が次第に上がって参っているということでもあります。

また、この国際日本文学研究集会は、日本の研究者と海外の研究者との交流を行ない、それによって日本文学研究の推進をはかることを目的としております。しかし予算等の制約があって、当方で旅費を用意してお招きすることができないので、たまたまこの時期に日本に滞在されている方を主とすることになりますが、わずかではありますけれども、この集会のために海外からお出でいただくような方もあらわれて参りました。私どもはこの研究集会を、海外の研究者が日本にきて日本の研究者と交流し、研究を進めて行かれるための一つの機会にしてゆきたいと念じております。残念ながらその点はまだ十分とは申せませんので、さらに努力を続けて参りたいと思っております。

なおもう一つ、当館は資料や論文などの整理その他においてコンピュータを利用しております。これもどうやら緒についたと言えらると思います。コンピュータの利用は最近ではかなり一般的となって来たようではありますが、そもそもこういうものは自然科学の方面から始まったことでありまして、日本文学の文献を検索するようなことにはなおいろいろとむずかしいことがあるようであります。しかし鋭意努力をしております、試験的なことはできるようになって参りました。それで、あとで紹介があると思っておりますが、本日は皆様に試験的な御利用の機会を提供することにいたしました。

本日はこれから研究発表があり、明日の午前中は、研究発表、午後からは、当館に現在客員教授としておいでになっているハーバード大学のヒベット教授、それから京都大学名誉教授現在甲南女子大学文学部教授の阪倉篤義先生、阪倉先生には当館の評議員をお願いしておりますが、このお二人の先生の公開講演を計画しております。

どうか、今日、明日、両日も皆様の活発な御発表と御討論をお願いしたいと存じます。簡単でございますがごあいさついたします。

**発行**

昭和60年3月

編集兼発行者

**国文学研究資料館**

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 785-7131 (代)